

(別添)

土肥整形外科病院 医療機関等2025プラン

| | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 平成31年 | 1月 | 策定 |
| 令和元年 | 6月 | 改定 |
| 令和5年 | 2月 | 改定 |
| 令和7年 | 9月 | 改定 |

【土肥整形外科病院の基本情報】

医療機関名：土肥整形外科病院

開設主体：医療法人社団 慈杏会 理事長 土肥大右

所在地：東広島市西条町西条東1283-2

許可病床数：65床

(病床の種別) 一般病棟 50床 (内地域包括ケア病床16床) 療養病床 15床

(病床機能別) 回復期 50床 慢性期 15床

稼働病床数：65床

(病床の種別) 一般病棟 50床 (内地域包括ケア病床16床)、療養病床 15床

(病床機能別) 回復期 50床、慢性期 15床

診療科目：整形外科、形成外科、リハビリテーション科、麻酔科

職員数:実人数 (R7.9.1現在)

| | | | | |
|----------|----|------|-----|-----|
| ・ 医師 | 常勤 | 5人、 | 非常勤 | 11人 |
| ・ 看護師 | 常勤 | 24人、 | 非常勤 | 3人 |
| ・ 准看護師 | 常勤 | 5人 | 非常勤 | 2人 |
| ・ 理学療法士 | 常勤 | 7人 | | |
| ・ 薬剤師 | 常勤 | 1人、 | 非常勤 | 1人 |
| ・ 放射線技師 | 常勤 | 2人、 | 非常勤 | 1人 |
| ・ 臨床検査技師 | | | 非常勤 | 1人 |
| ・ 管理栄養士 | 常勤 | 1人 | | |
| ・ 社会福祉士 | 常勤 | 1人 | | |
| ・ マッサージ師 | 常勤 | 1人 | | |
| ・ 看護助手 | 常勤 | 12人、 | 非常勤 | 1人 |
| ・ リハビリ助手 | 常勤 | 2人、 | 非常勤 | 3人 |
| ・ 事務職員 | 常勤 | 8人 | | |

(計92人)

以上

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

- ・ 広島中央地域の総人口は国勢調査を基にした推計によるとR2年の22万7千人をピークに徐々に減少すると見込まれている
- ・ 65歳以上の高齢者人口は、R4年の6万人からR7年61千人、R27年66千人と増加し、総人口に占める割合（高齢化率）はR4年の27.2%から、R27年33.0%と大幅に増加することが見込まれている。
- ・ 特に75歳以上の後期高齢者人口については、R4年の31千人からR7年には36千人、R27年には38千人に急激な増加が見込まれている。
- ・ 東広島市では、現在の総人口がほぼ維持される一方で、65歳以上の高齢者人口が、R4年47千人からR7年49千人、R27年57千人と急速に増加することが見込まれるとともに、総人口に占める割合もそれぞれ24.6%から31.3%に増加することが見込まれている。

② 構想区域の課題

- ・ R4年11月現在の広島中央地域の病院数は20施設で、人口10万人あたり8.78施設と全国平均の6.46施設、県平均の8.25施設を上回っている。
- ・ また病床数では3,232床で、人口10万人当たり1,419床と全国平均の1,236床、県平均の1,315床を上回っている。これらは、他の地域に比べて精神病床と結核病床の割合が多いことによる。
- ・ R7年の入院患者の受療動向によると、広島中央地域の住民が、同じ広島中央地域の医療機関に入院する割合は72.3%（地域完結率）、他地域へは、広島地域9.9%、呉地域7.1%、尾三地域6.4%と見込まれている。

| 区分 | R3年度病床機能 | R7年における医療需要（当該構想区域に居住する患者の医療需要） | R7年の医療提供体制 | | | R7年の医療提供体制とR7年の推計必要病床数の比較 | R3年の実病床数とR7年の推計必要病床数の比較 |
|-------|----------|---------------------------------|--|---|----------------------|---------------------------|-------------------------|
| | | | 現在の医療体制が変わらないと仮定した場合の他の構想地域に所在する医療機関により提供される量を増減したもの | 将来のあるべき医療体制をふまえた他の構想地域に所在する医療機関により提供される量を増減したもの | 病床数の必要量（必要病床数：暫定推計値） | | |
| | | | 患者居住地ベース① | 医療機関所在地ベース② | 基本的な考え方の数値③ | | |
| 高度急性期 | 14 | 149 | 91 | 91 | 122 | 0 | |
| 急性期 | 951 | 524 | 419 | 524 | 672 | (不足) 105 | |
| 回復期 | 563 | 610 | 516 | 610 | 678 | (不足) 94 | |
| 慢性期 | 867 | 615 | 700 | 615 | 669 | (過剰)▲ 85 | |
| 休床 | 20 | | | | | | (過剰) |
| 病床計 | 2,415 | 1,898 | 1,726 | 1,839 | 2,141 | (不足) 114 | ▲ 274 |

③ 自施設の現状

<自施設の理念、経営方針等>

- ・「真心」「慈愛」「誠実」をモットーに、患者さんが安心感と満足感をもって治療に専念できるように努力する。

<自施設の診療実績>

- ・ 一般病棟（地域一般入院基本料3） 34床
- ・ 地域包括ケア病床（地域包括ケア入院医療管理料2） 16床
- ・ 医療療養病棟（療養病棟入院基本料1） 15床

<手術件数>

| 期間（1月～12月） | R5年 | R6年 | R6年手術件数（件） | |
|---------------------|------|------|------------|-----|
| 手術件数 | 290 | 284 | 大腿骨頸部骨折 | 25 |
| （内入院） | 210 | 183 | （内人工骨頭置換術） | （6） |
| （全身麻酔） | 77 | 63 | （内骨接合術） | （9） |
| | | | 下肢骨折手術 | 24 |
| <R6年患者数・平均在院日数・稼働率> | | | 橈骨遠位端骨折 | 24 |
| 病棟名 | 一般 | 療養 | 上腕骨骨折 | 1 |
| 1日平均入院患者数 | 33.2 | 13.3 | アキレス腱縫合術 | 6 |
| 平均在院日数 | 28.8 | 68.3 | その他 | 204 |
| 病床稼働率 | 66% | 44% | 計 | 284 |

- ・ 自施設の特徴 整形外科専門病院として 初期救急医療を中心に行っている。

・ 自施設の担う政策医療

○ 救急医療

- ・ 救急告知病院
- ・ 在宅当番医制病院
- ・ 令和6年（1月～12月）救急車受入件数 62件（内夜間受入件数 10件）

④ 自施設の課題

- ・ 全国的な療養病床を中心とした病床稼働率の低下傾向及び、整形外科領域の入院需要が外来・在宅へシフトしている状況がある。
- ・ ここ数年の人件費と医療材料費等の高騰によりコストを圧迫しておりDX推進が課題。
- ・ 紹介・逆紹介の流れが弱く、患者紹介元が固定化している。
- ・ 病院完結型から地域完結型に移行している中で地域との連携を一層強化する必要がある。
- ・ 自宅や介護施設等で療養する患者の急性増悪や軽症急性疾患などの緊急性の受入機能を強化し、退院後も継続的なフォローを実施する等により地域内の患者循環を確立する。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・50年前に開業し、当時、当地域において整形外科の分野ではパイオニア的な存在として、これまで地域医療を担ってきた。
- ・現在、入院、手術が出来る整形外科病院は当地域においては必しも十分とは言い難い。
- ・その状況をふまえ、今後も整形外科専門病院として地域医療を担い、社会的責務を果たしていく方針である。

② 今後持つべき病床機能

・現在一般病棟50床のうち16床が地域包括ケア病床であり、状況を見て4床追加し最終的に20床を地域包括ケア病床に転換する予定であったが、更に増やして11月より23床を地域包括ケア病床に転換する。

・転換後の一般病床27床は引き続き手術後患者や急患患者の受入等により急性期医療を提供していく予定である。

・今後も整形外科専門病院として整形の急性期の患者に対し、状態の早期の回復に向けて医療を提供し、在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供していく機能を維持していく。

・特に大腿骨頸部骨折等の患者に対しADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供していく。

③ 新興感染症等の対策について

・整形外科専門病院であるため重症、軽症にかかわらず受け入れしておらず、今後も同様である

④ 働き方改革の対応について

・現行ではA水準であり、現行の医療対策を提供する上で問題はなく特に対応は不要である

⑤ 建物の建替え、改修、高度医療機器の購入について

・特になし

⑥ その他見直すべき点

・今後の医療需要の推移を加味して最適な病床規模、病床機能を検討していく。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

| | 現在 (2025年9月～) | | 将来 (2026年度) |
|-------|------------------|---|----------------|
| 高度急性期 | | | |
| 急性期 | | | |
| 回復期 | 50床 | → | 50床 |
| 慢性期 | 15床 | | 0床 |
| (合計) | 65床 | | 50床 |

<年次スケジュール>

| | 取組内容 | 到達目標 | (参考) 関連施策等 |
|--------|--------------------------|---|---|
| 2024年度 | ・地域包括ケア病床を16床から20床に変更の検討 | |   |
| 2025年度 | | ・療養病床を30床から15床に減床する。 ・地域包括ケア病床を16床から23床に変更予定 | |
| 2026年度 | ・稼働状況を見て療養病棟の廃止を検討する。 | ・療養病棟の稼働率の減少に歯止めが掛からない場合は廃止する。 | |
| 2027年度 | | | |

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

| | 現在 (本プラン策定時点) | | 将来 (2026年度) |
|-------|--------------------------------|---|----------------|
| 維持 | 整形外科 形成外科 リハビリテーション科、麻酔科 | → | 同左 |
| 新設 | | → | なし |
| 廃止 | | → | |
| 変更・統合 | | → | |

③ その他の数値目標について

| |
|---|
| <p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率：100% ・ 手術室稼働率： ・ 紹介率： ・ 逆紹介率： <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率： ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： <p>その他：</p> |
|---|

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

| |
|--|
| |
|--|